

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代		
所在地	静岡県掛川市家代の里2丁目13-10		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	平成24年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/BackTop.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成23年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている皆様がご自宅で過ごされたときと同じような気持ちで過ごしていただけるように、居室においても、共有部分のフロアへ出てこられてもくつろげる空間を心がけています。皆様が笑顔で過ごしていただけるように、日常の散歩や季節の感じられるイベントを無理のないように、生活にとりいれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の閑静な住宅地に立地している。まだ開設して数ヶ月だが、地域へ向けた説明会でグループホームについての質問に丁寧に答え、チャリティーバザーを兼ねた(東日本大震災のための)施設見学会は、700~800部のチラシをポスティングした。そのかきもあって多くの地域住民が足を運び、「明るく木のぬくもりがありオープンな事業所」との感想をもらっている。「家代は書いて字のごとく家の代わり」、利用者にとってはもちろんのこと職員にとっても馴染みの場となっていて、共に暮らしを楽しむ様子が覗えた。また近隣は子どものいる世帯が多く、事業所前の通りには楽しそうにはしゃぎながら歩く子どもたちの姿が日常風景としてあり、今後交流へと発展させたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「いつでも笑い声が絶えない笑顔あふれる我が家でありたい」この理念を朝礼等でも確認しながら、毎日入居者とすごしている。	理念には「どんな施設にしていきたいか」についての、職員の思いが集約されている。キッチンに掲示しており、毎日申し送りの際目を通して。具体的に実践に結びつけられるよう個人目標の設定を視野に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時にあいさつをしたり話しをすることは日常的に。また地域の行事へも参加できるものは参加させていただく。	事業所前の通りが子ども達の通学路になっていて、また犬の散歩で通る住民も多く、挨拶を交わす機会が毎日のようにある。10月に開催した地域の祭りでは事業所の駐車場を屋台の休憩所として提供した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員からの相談をうけたり、地域の方の見学や相談があれば、いつでも受けることができる体制づくりをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や行政の方々の意見を伺い、事業所のサービス、質の向上に努めています。	区長、副区長、民生委員、市の職員、家族が参加のもと2ヶ月に1回開催している。事業所に理解を示してくれ、「何かあれば教えてください」と言ってもらえている。今後は近隣住民にも参加してもらえようような開催を目指していきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業所連絡会への参加、何か困ったことがあったとき、運営上の相談事ができたときには、積極的に市の窓口へ相談させていただきます。	市から「何でも相談してください」と言ってもらえていて、質問や相談に丁寧な返答をもらえている。運営推進会議にも参加してもらっていて、円滑な関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議での研修、日々の指導により職員全員での取り組みをしています。	玄関を開けてあり、外の様子が見えることが利用者の安心につながっている。身体拘束をしないケアについて研修を行ったり会議の中で意識づけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議での研修、日々の指導により職員全員での取り組みはもちろん、徹底して防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社、職場での研修により成年後見制度について学ぶ機会をもち、入居者に必要な方がいれば、利用できるようにサポートさせていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず契約書と重要事項説明書の読み合わせ、説明をさせていただき、不明な点がないように確認、納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日々の生活の中での話しに耳を傾ける事、家族には面会の際にお話を聞く等して要望があれば運営に反映させるよう努める。	「何でも遠慮なく言ってください」と伝えている。敬老会では利用者と一緒に食事をゆっくりとれる喜びを噛みしめている家族もいる。今後は家族同士の交流の場も提供していきたいと考えている。	利用者と家族と一緒に過ごす時間がさらに充実するような、イベントの開催に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員とは日常的に意見を聞き、また月に1回の職場会議においても意見を出し合っている。	職員からの提案は即実践し、有効な事は順次取り入れている。業務では休憩の取り方や食事担当について話し合い、速やかに改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し、やりがいがあり、働きやすい職場になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を含めた、法人の行う内部研修や外部研修等参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会への積極的な参加はもちろん他施設との情報交換を行いサービスの質の向上を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	有意義なアセスメントを心がけ、情報は職員で共有し、本人の不安を取り除けるような会話、接し方を心がける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が今までされてきた介護や思いについて、しっかりと傾聴、共感し、安心していただけるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の希望、要望をきちんと理解するように努め、必要なサービスが提供できるようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護をするという意識ではなく、ご入居者の生活を支える、縁の下の力持ちであるという気持ちで協働作業を心がける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあったときには、すぐにご家族に連絡をとり相談、対応させていただく姿勢で無理のないようにご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族にとって負担にならないように面会はいつでも大丈夫です。使い慣れたものや、ご本人にとって危険の無い物であれば、部屋に置くことも可能です	事業所から呼びかけをしなくても、土・日を中心に家族の訪問が頻繁にある。また新聞を毎朝届けてくれる家族や友人の来訪もあり、和室スペースでゆっくりしてもらうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者が、どの様な感情をいっているのかは日々変化があり、それをその都度、見極めるよう努力、し皆様の良い関係が築けるようサポートさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の家と思って、生活をしていただいていた場所なので、契約が終了しても相談や支援はもちろん、今まで築いた関係は大切にさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活、会話の中でご本人の思いや意向に気付き姿勢を忘れずに、常に本人本位に寄り添うよう努めている。	利用者の発した言葉を経過記録に記載し、職員で共有している。利用者自ら訴えてくれる人が多く、職員も思いを汲み取りやすい。また、職員の言葉で書き記すことも、利用者を多角的に見ることに役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントだけではなく、日々の生活での会話に耳を傾け、面会の方とも会話しながら、どんなに些細なことでも情報として職員で共有するように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録を細かく記録することで個々の状況、現状を正しく理解して職員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を取り巻く関係者とのカンファレンスにより現状に即したサービスができるように努めている。	ケアマネがモニタリングからプラン作成まで一貫して行っている。カンファレンスでは職員の意見が活発に出ていて、プランは利用者に対する職員の想いが詰まったものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員による経過記録や生活管理票をもとに情報を共有し現状に即したサービスが提供できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスが提供できるように本人や家族の状況を職員間で、情報の共有をして対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用可能な地域資源を把握しながら、ご本人が望む暮らしに満足し楽しめることを常に考えて支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を最優先に考え連携を取りながら支援しています。	協力医の往診があり、また24時間対応のため連携がスムーズである。以前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。受診記録は青が看護師、黒が職員記入と色分けして見やすくなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活で気付いた体調の変化は看護師に報告、相談し必要があれば、適切な医療的処置が受けられるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関の地域連携室等と連絡をとり、情報交換や相談窓口として常に関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から常に現状の把握や将来的なことは、ご家族と相談しながら、事業所としての可能な方針を理解してもらい、ご本人、ご家族にとっても良いと思われる方向性を考えていけるように取り組んでいる。	医療がなければ看取りに取り組む考えがあり、協力医との関係も構築できている。病院で最期を迎えた利用者の事例では、終末期の在り方について迷いや悩みが生じたが力量につながる経験として職員は前向きに捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網やマニュアルの整備、研修などにより訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の消防計画、訓練の徹底と、地域の地区役員との話し合い、避難訓練への参加など災害時への備えを準備し、体制を築いている。	AEDを設置し、全職員が取扱い方を学んでいて、地域にも有事の際には協力する旨を伝えている。地震、風水害のマニュアルを整備し、スプリンクラーのタンクを生活用水として確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場会議においても人格の尊重やプライバシーの確保に関する研修、教育を実施し日々、実践している。	目的や理由があつての行動であるという考え 方から不穏、徘徊、暴力といった言葉は経過 記録に記載しないことを決めている。言葉が けについては丁寧語を使用するようにしてい る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人の言葉や会話に耳を傾け自己決定の できるような会話をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のその日の体調や希望に沿うよう に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	自分でできる決定はできる限りしていただき 大変な所は希望を伺いながら支援してい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	個々の嗜好はもちろんだが、オープンキッ チンであることから食事のできる過程を音や香 りで楽しんで、待っていただける環境です。 又無理のないような協働作業を心がけてい ます。	固さや大きさなど食べやすくなるよう工夫して いる。1日で肉、魚、野菜をバランスよく摂取 できるようメニュー構成を考えている。おやつ は毎日手作りで、ホットプレートで囲んで賑や かに作るのが利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	職員による経過記録や生活管理票をもとに 情報を共有し個々の状況に応じた支援に努 めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の状態を 観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表を細かく記入することで排泄リズム等把握して、その人らしい生活の中の自立にむけた支援に努めている。	夜間もおむつは使用しないという方針があり、介助することでおむつから布パンツとパットに改善できた例もある。またパットを汚さずに過ごせるようにしたり、排泄の感覚を持てるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質や乳製品が無理なく摂取できるように毎日心がけた献立を考えている。運動不足になりがちなので、体操等、体を動かすよう気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は常に柔軟に対応している。場合によっては、清拭、足浴などの対応をする。	少なくとも週に2日は入浴できるよう支援している。時間は午前から午後にかけてたっぷり時間をとり、湯を一人ずつ替え、毎回一番風呂を味わえるようにしている。マンツーマン介助のため、歌声が聞こえたり楽しそうに会話する声が訪問時にも確認された。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間等はないので、みなさんの生活習慣に合わせて睡眠をとっていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化については、職員間の申し送りにより確認をし、日付と名前の確認を怠らず誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の体調、状態に合わせて、無理のないように役割や楽しみがもてるように支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態、天候を考えての外出支援に努めている。	本部開催の大運動会に参加し、優勝したことが利用者の意欲へとつながっている。家族が外出に連れ出してくれて受診がてらドライブなどを楽しんでいる。事業所も今後個別に外出の機会を増やしたいと考えている。	1日1回は外の空気を吸うなど目標を持って、外気浴に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持したり、使用するような場面があるときは、必要な支援をします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする際には、必要な支援をしたり、手紙のやりとりも必要に応じて支援いたします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが過ごしやすいように清潔を保つことはもちろん、季節感の感じられる物などで居心地の良い空間になるように心がけています。	白木をふんだんに使用し、共用空間全体が柔らかく明るい雰囲気になっている。キッチンでは椅子を置いてカウンター越しに会話を楽しむこともできる。季節の飾りや花がさり気なく置かれ、落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は日常的に集まって気の合う方達のサロンのような空間であり、又椅子の移動もできるので、好きな場所へ座っていただくことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人の使い慣れた物を持ってきて頂いたり、照明や空調にも気を付けています。	気持ちよい睡眠ができるよう天気のいい日は布団を干している。畳を入れたり、仏壇、時計、テレビ、筆筒を持ち込んでいる。職員と一緒に掃除をしたり表札をつけ、「家」として過ごしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自宅と同じようなくつろいだ気持ちで自立した生活を送れるように常に安全な環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は「いつでも笑い声が絶えない笑顔あふれる我が家でありたい」この理念を朝礼等でも確認しながら、毎日入居者とすごしている。	理念には「どんな施設にしていきたいか」についての、職員の思いが集約されている。キッチンに掲示しており、毎日申し送りの際目を通して。具体的に実践に結びつけられるよう個人目標の設定を視野に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時にあいさつをしたり話しをすることは日常的に。また地域の行事へも参加できるものは参加させていただく。	事業所前の通りが子ども達の通学路になっていて、また犬の散歩で通る住民も多く、挨拶を交わす機会が毎日のようにある。10月に開催した地域の祭りでは事業所の駐車場を屋台の休憩所として提供した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員からの相談をうけたり、地域の方の見学や相談があれば、いつでも受けることができる体制づくりをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や行政の方々の意見を伺い、事業所のサービス、質の向上に努めています。	区長、副区長、民生委員、市の職員、家族が参加のもと2ヶ月に1回開催している。事業所に理解を示してくれ、「何かあれば教えてください」と言ってもらえている。今後は近隣住民にも参加してもらえようような開催を目指していきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業所連絡会への参加、何か困ったことがあったとき、運営上の相談事ができたときには、積極的に市の窓口へ相談させていただきます。	市から「何でも相談してください」と言ってもらえていて、質問や相談に丁寧な返答をもらえている。運営推進会議にも参加してもらっていて、円滑な関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議での研修、日々の指導により職員全員での取り組みをしています。	玄関を開けてあり、外の様子が見えることが利用者の安心につながっている。身体拘束をしないケアについて研修を行ったり会議の中で意識づけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議での研修、日々の指導により職員全員での取り組みはもちろん、徹底して防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社、職場での研修により成年後見制度について学ぶ機会をもち、入居者に必要な方がいれば、利用できるようにサポートさせていただきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、必ず契約書と重要事項説明書の読み合わせ、説明をさせていただき、不明な点がないように確認、納得していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日々の生活の中での話しに耳を傾ける事、家族には面会の際にお話を聞く等して要望があれば運営に反映させるよう努める。	「何でも遠慮なく言ってください」と伝えている。敬老会では利用者と一緒に食事をゆっくりとれる喜びを噛みしめている家族もいる。今後は家族同士の交流の場も提供していきたいと考えている。	利用者と家族と一緒に過ごす時間がさらに充実するような、イベントの開催に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員とは日常的に意見を聞き、また月に1回の職場会議においても意見を出し合っている。	職員からの提案は即実践し、有効な事は順次取り入れている。業務では休憩の取り方や食事担当について話し合い、速やかに改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し、やりがいがあり、働きやすい職場になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修を含めた、法人の行う内部研修や外部研修等参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会への積極的な参加はもちろん他施設との情報交換を行いサービスの質の向上を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	有意義なアセスメントを心がけ、情報は職員で共有し、本人の不安を取り除けるような会話、接し方を心がける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が今までされてきた介護や思いについて、しっかりと傾聴、共感し、安心していただけるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の希望、要望をきちんと理解するように努め、必要なサービスが提供できるようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護をするという意識ではなく、ご入居者の生活を支える、縁の下の力持ちであるという気持ちで協働作業を心がける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあったときには、すぐにご家族に連絡をとり相談、対応させていただく姿勢で無理のないようにご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族にとって負担にならないように面会はいつでも大丈夫です。使い慣れたものや、ご本人にとって危険の無い物であれば、部屋に置くことも可能です	事業所から呼びかけをしなくても、土・日を中心に家族の訪問が頻繁にある。また新聞を毎朝届けてくれる家族や友人の来訪もあり、和室スペースでゆっくりしてもらおうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者が、どの様な感情をいっているのかは日々変化があり、それをその都度、見極めるよう努力、し皆様の良い関係が築けるようサポートさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人の家と思って、生活をしていただいていた場所なので、契約が終了しても相談や支援はもちろん、今まで築いた関係は大切にさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活、会話の中でご本人の思いや意向に気付く姿勢を忘れずに、常に本人本位に寄り添うよう努めている。	利用者の発した言葉を経過記録に記載し、職員で共有している。個々に訴える利用者があるので職員は傾聴を心がけている。また、職員の言葉で書き記すことも、利用者を多角的に見ることに役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントだけではなく、日々の生活での会話に耳を傾け、面会の方とも会話しながら、どんなに些細なことでも情報として職員で共有するように努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録を細かく記録することで個々の状況、現状を正しく理解して職員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を取り巻く関係者とのカンファレンスにより現状に即したサービスができるように努めている。	ケアマネがモニタリングからプラン作成まで一貫して行っている。カンファレンスでは職員の意見が活発に出ていて、プランは利用者に対する職員の想いが詰まったものになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員による経過記録や生活管理票をもとに情報を共有し現状に即したサービスが提供できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスが提供できるように本人や家族の状況を職員間で、情報の共有をして対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用可能な地域資源を把握しながら、ご本人が望む暮らしに満足し楽しめることを常に考えて支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を最優先に考え連携を取りながら支援しています。	協力医の往診があり、また24時間対応のため連携がスムーズである。以前からのかかりつけ医を継続している利用者もいる。受診記録は青が看護師、黒が職員記入と色分けして見やすくなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活で気付いた体調の変化は看護師に報告、相談し必要があれば、適切な医療的処置が受けられるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関の地域連携室等と連絡をとり、情報交換や相談窓口として常に関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から常に現状の把握や将来的なことは、ご家族と相談しながら、事業所としての可能な方針を理解してもらい、ご本人、ご家族にとっても良いと思われる方向性を考えていけるように取り組んでいる。	医療がなければ看取りに取り組み考えがあり、協力医との関係も構築できている。病院で最期を迎えた利用者の事例では、終末期の在り方について迷いや悩みが生じたが力量につながる経験として職員は前向きに捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網やマニュアルの整備、研修などにより訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内の消防計画、訓練の徹底と、地域の地区役員との話し合い、避難訓練への参加など災害時への備えを準備し、体制を築いている。	AEDを設置し、全職員が取扱い方を学んでいて、地域にも有事の際には協力する旨を伝えている。地震、風水害のマニュアルを整備し、スプリンクラーのタンクを生活用水として確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場会議においても人格の尊重やプライバシーの確保に関する研修、教育を実施し日々、実践している。	目的や理由があつての行動であるという考え 方から不穏、徘徊、暴力といった言葉は経過 記録に記載しないことを決めている。言葉が けについては丁寧語を使用するようにしてい る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	本人の言葉や会話に耳を傾け自己決定の できるような会話をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のその日の体調や希望に沿うよう に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	自分でできる決定はできる限りしていただき 大変な所は希望を伺いながら支援してい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	個々の嗜好はもちろんだが、オープンキッ チンであることから食事のできる過程を音や香 りで楽しんで、待っていただける環境です。 又無理のないような協働作業を心がけてい ます。	固さや大きさなど食べやすくなるよう工夫して いる。1日で肉、魚、野菜をバランスよく摂取 できるようメニュー構成を考えている。おやつ は毎日手作りで、ホットプレートで囲んで賑や かに作るのが利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	職員による経過記録や生活管理票をもとに 情報を共有し個々の状況に応じた支援に努 めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の状態を 観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活管理表を細かく記入することで排泄リズム等把握して、その人らしい生活の中の自立にむけた支援に努めている。	夜間もおむつは使用しないという方針があり、介助することでおむつから布パンツとパットに改善できた例もある。またパットを汚さずに過ごせるようにしたり、排泄の感覚を持てるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質や乳製品が無理なく摂取できるように毎日心がけた献立を考えている。運動不足になりがちなので、体操等、体を動かすよう気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は常に柔軟に対応している。場合によっては、清拭、足浴などの対応をする。	少なくとも週に2日は入浴できるよう支援している。時間は午前から午後にかけてたっぷり時間をとり、湯を一人ずつ替え、毎回一番風呂を味わえるようにしている。マンツーマン介助のため、歌声が聞こえたり楽しそうに会話する声が訪問時にも確認された。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間等はないので、みなさんの生活習慣に合わせて睡眠をとっていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化については、職員間の申し送りにより確認をし、日付と名前の確認を怠らず誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の体調、状態に合わせて、無理のないように役割や楽しみがもてるように支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	健康状態、天候を考えての外出支援に努めている。	本部開催の大運動会に参加し、優勝したことが利用者の意欲へとつながっている。家族が外出に連れ出してくれて受診がてらドライブなどを楽しんでいる。事業所も今後個別に外出の機会を増やしたいと考えている。	1日1回は外の空気を吸うなど目標を持って、外気浴に取り組むことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持したり、使用するような場面があるときは、必要な支援をします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をする際には、必要な支援をしたり、手紙のやりとりも必要に応じて支援いたします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが過ごしやすいように清潔を保つことはもちろん、季節感の感じられる物などで居心地の良い空間になるように心がけています。	白木をふんだんに使用し、共用空間全体が柔らかく明るい雰囲気になっている。キッチンでは椅子を置いてカウンター越しに会話を楽しむこともできる。季節の飾りや花がさり気なく置かれ、落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は日常的に集まって気の合う方達のサロンのような空間であり、又椅子の移動もできるので、好きな場所へ座っていただくことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人の使い慣れた物を持ってきて頂いたり、照明や空調にも気を付けています。	気持ちよい睡眠ができるよう天気のいい日は布団を干している。時計、テレビ、筆筒を持ち込んでいる。職員と一緒に掃除をしたり表札をつけ、「家」として過ごしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自宅と同じようなくつろいだ気持ちで自立した生活を送れるように常に安全な環境づくりに努めている。		